

科目名	地域と財政
単位数	2単位
担当者	野田 裕康
授業種別	講義科目

サブタイトル	都道府県や市町村の全体的、及び、個別的な財政政策を学ぶ
授業内容	財政学は公的機関である都道府県や市町村（すなわち役所のこと）の行っている経済活動を資金面（歳入と歳出）から考察する学問です。よって、受講の前提として本来は経済学や行政学などの知識が必要となります。この地域と財政の講義では、特に地域に焦点を当て、前半では財政の仕組み、県や市町村の経済活動などを学び、後半では具体的な公的機関として、例えば埼玉県や東京都、飯能市や豊島区など、いわゆる地方の財政政策についてわかりやすく講義していきます。国だけでなく、身近な県や市の税収や公債（借金）、そして様々な公的サービスを予算と決算の面から現状を理解することは学生時代だけでなく社会人になってからも必要不可欠な知識なのです。
アクティブ・ラーニングの要素	クリッカー、タブレット端末等を活用した双方向授業／リアクションペーパー
到達目標	財政学とはどのような学問であるのか、そして地方財政の対象として県や市の経済活動の仕組みを47都道府県など全体的に理解できること、さらに、埼玉県や飯能市など個別具体的な県や市の地方財政の現状、過去の経緯、今後の課題など、最新の統計データから正確な規模（資金額）として習得できるようになることが目標となります。
到達目標となる駿大社会人基礎力	②非言語処理力／③情報収集力／④論理的・多面的思考力／⑬課題発見力
卒業認定・学位授与方針との関連	この科目は、ディプロマ・ポリシー（全学部）の「(5)総合的な力」と関連しており、社会のあるべき姿と現状を適切に認識し、様々な角度から分析して課題を発見することができます。
関連科目	「経済学」「地域と金融」「地域社会と環境」など、経済に関連する科目をすでに履修しているか、同時に履修することが望ましい。

テキスト・参考書等

書名	著者	出版社	ISBN	備考
—	—	—	—	特定のテキストは使用しない
授業外における学習方法及び必要な時間	講義時に掲出されたスライド資料（パワーポイント）から重要と考える箇所をメモしておき、授業終了後にノートにまとめておくこと（2時間） 講義時に理解できなかった用語、もっと詳しく知りたい箇所などを、メディアセンターや経済辞典などで確認し、正確な知識として復習しておくこと（2時間）			

成績評価方法

評価方法	評価割合	成績評価基準等
小テスト	60%	到達目標に対応して毎回の授業内で内容に関連する小テスト（300字以上記入）を実施する（4点×15回）
レポート課題	40%	到達目標に対応して、情報収集力を確認するためにレポート3回（1,000字以上）を課す
その他関連する事項	-	欠席回数が4回を越えた場合は成績評価の対象外となり単位修得できない。
課題に対するフィードバックの方法	授業終了20分前頃に理解度確認のため、毎回、リアクションペーパーとして所定用紙に記入し、授業終了時提出（欠席者は後日提出できません）、次回の講義時に提出分全体の講評を行います。 月1回程度のレポート（翌週提出）を課し、理解度などその内容を適宜その後の講義に反映していきます。	

実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の実務経験	実践的な教育の取組
—	—

授業計画

第1回	ガイダンス、地域の財政とは何か、経済学と財政学について
第2回	都道府県と市町村について
第3回	地域財政の考察視点、基準

第4回	埼玉県の財政
第5回	東京都の財政
第6回	千葉県、神奈川県 of 財政
第7回	関東圏と関西圏、その他地域の財政
第8回	飯能市の財政の特徴
第9回	入間市の財政の特徴
第10回	埼玉西部地区財政の特徴
第11回	東京都23特別区の特徴
第12回	都心3区の特徴
第13回	他道府県の財政（財政力が大きい県と小さい県の特徴）
第14回	他市町村の財政（財政力が大きい市町村と小さい市町村の特徴）
第15回	まとめ
第三者チェック①	修正なし。 2024.02.01 海老根
第三者チェック②	
第三者チェック③	